

1^{ère} Partie 【第一部】

Autour des années 1900, du "Chat Noir" à....
～ 1900年前後と“黒猫”、“ムーラン・ルージュ”..... ～

エンパイア劇場のプリマドンナ (E.サティ / D.ボノー & N.プレス)
La Diva de l'Empire (Erik Satie / D. Bonnaud & N. Biès)

マダム・アルチュール (Y.ギルベール)
Madame Arthur (Yvette Guilbert)

あんたがほしいの <ジュ・トゥ・ヴー> (E.サティ / H.パコリ)
Je te veux (Erik Satie / Henry Pacory)

愛しい人よ <手紙の歌> オペレッタ《ラ・ペリコール》より
(J.オッフェンバック / H.メイヤック & L.アレヴィ)
Lettre de la Périchole 《La Périchole》
(Jacques Offenbach / Henri Meilhac & Ludovic Halévy)

恋人は二人 オペレッタ《仮面をつけた愛》より (A.メサジェ / S.ギトリ)
J'ai deux amants 《L'Amour masqué》 (André Messager / Sacha Guitry)

本当の私はそうじゃないのよ オペレッタ《3つのワルツ》より
(O.シュトラウス / F.L.ド・マルシャン & A.ウィルメツ)
Je ne suis pas ce que l'on pense 《Les trois valses》
(Oscar Straus / F.L. de Marchand & A. Willemetz)

一人、二人、三人、四人、...、何人でもいいわ オペレッタ《ボム・ダビ(赤いりんご)》より
(J.オッフェンバック / L.アレヴィ & W.ピュスナック)
J'en prendrai un, deux, trois, quatre,... 《Pomme d'Api》
(Jacques Offenbach / Ludovic Halévy & William Busnach)

最後のワルツ 《あるレビュー》より
(R.アーン / M.ドネ & H.デュヴェルノワ)
La dernière valse 《Une revue》
(Reynaldo Hahn / Maurice Donnay & Henri Duvernois)

エリゼ宮の晩餐会 (E.サティ / V.イスパ)
Un dîner à l'Elysée (Erik Satie / Vincent Hyspa)

ほろ酔いのアリエット オペレッタ《ラ・ペリコール》より
(J.オッフェンバック / H.メイヤック & L.アレヴィ)
Ah ! quel dîner ! 《La Périchole》
(Jacques Offenbach / Henri Meilhac & Ludovic Halévy)

2^{ème} Partie 【第二部】

Chansons d'amour
～ 愛のシャンソン ～

聞かせてよ愛の言葉を (J.ルノワール / J.ルノワール)
Parlez-moi d'amour (Jean Lenoir / Jean Lenoir)

ムーラン・ルージュ <赤い風車> (G.オーリック / J.ラリュ)
Moulin rouge (Georges Auric / Jacques Larue)

ロマンス (J.コスマ / H.バッシ)
Romance (Joseph Kosma / Henri Bassis)

いつ帰ってくるの? (バルバラ / バルバラ)
Dis, quand reviendras-tu ? (Barbara / Barbara)

恋人たちの死 (L.フェレ / Ch.ボードレール)
La mort des amants (Léo Ferré / Charles Baudelaire)

人生は過ぎゆく (J.オルメス / J.オルメス)
La vie s'en va (Joël Holmès / Joël Holmès)

時の流れに (L.フェレ / L.フェレ)
Avec le temps (Léo Ferré / Léo Ferré)

枯葉 (J.コスマ / J.プレヴェール)
Les feuilles mortes (Joseph Kosma / Jacques Prévert)

もう愛していない (K.ヴァイル / M.マーゲル)
Je ne t'aime pas (Kurt Weill / Maurice Magre)

神様! <モン・ディユー> (M.ヴォーケル / Ch.デュモン)
Mon Dieu ! (Michel Vaucaire / Charles Dumont)

愛の讃歌 (M.モノ / E.ピアフ)
Hymne à l'amour (Marguerite Monnot / Edith Piaf)

都合により、曲目が変更する場合がございます。予めご了承ください。



奈良 ゆみ / ソプラノ

相愛大学声楽科卒業後、フランス政府給費留学生としてパリ国立高等音楽院に入学、メシアンに注目される。以後パリを拠点としてヨーロッパで各地で演奏活動を展開。色彩感にあふれた声と創造的な表現力は、とりわけ現代音楽の分野で注目を集め、デュサパン、ダオ、エロワ、松平頼則、平義久をはじめ多くの現代作曲家から曲を捧げられている。パリ・オペラ座で演奏されたメシアン『ハラウィ』をはじめとして、シェンベルク『月に憑かれたピエロ』、オハナ『三つの御花の物語』、『サティとフランス六人組』やラヴェル『シェヘラザード』などが高い評価を受ける。さらに、西鶴『好色一代女』のテキストを使ったジャン＝クロード・エロワの『仏明会』や、松平頼則のモノ・オペラ『源氏物語』の歌い手として、日本の音楽・文化が西洋の現代音楽と結びつく可能性を明示した。東京でドビュッシー『ペレアスとメリザンド』(ジャン・フルネ指揮、東京都交響楽団)を歌う他、日本各地でクリエイティブなテーマでリサイタルを行っている。パリで開催されたメシアン生誕100年記念オーブニング・コンサートでは『ミのための詩』を歌った。(Pf: ロジェ・ムラロ) CD録音も多く、『ドビュッシー歌曲集』(Pf: クロード・ラヴォワ)は、『ル・モンド』仏音楽誌で最高推薦盤に挙げられている。

ホームページ <http://www.yuminara.com>



寺嶋 嶋也 / ピアノ

1964年生まれ。東京藝術大学音楽学部作曲科卒、同大学院修了。オペラシアターこんにゃく座での演奏や、97年東京都現代美術館でのボンビドー・コレクション展開催記念サティ連続コンサート「伝統の変装」、03年パリ日本文化会館における作品個展「東洋・西洋の音楽の交流」などは高く評価され、06年にはタングルウッド音楽祭に招かれボストン交響楽団のメンバーと自作を含む室内楽を演奏した。作曲、ピアノ、指揮など、活動は多方面にわたる。オペラ『グスコブドリの伝記』『末摘花』、合唱オペラ『そして旅に出た』、合唱劇『星の王子さま』ヴォードヴィル『タバコの害について』、『尺八・二十絃箏と管弦楽のための協奏曲』、合唱のための『沖縄のスケッチ』、古代復元楽器のための『大陸・半島・島』など作品多数。「大陸・半島・島/寺嶋嶋也作品集」(ALCD9026)、「寺嶋嶋也ピアノリサイタル〜シューベルト3大ソナタを弾く〜」(NARC2129〜30)など、多くのCDがある。

ホームページ <http://www.gregorio.jp/terashima/>

■会場アクセス■

【東京銀座】 王子ホール

東京都中央区銀座4丁目7番5号
TEL: 03 - 3564 - 0200

- ・JR『有楽町駅』下車 銀座口から徒歩7分
- ・地下鉄『銀座駅』下車 A12出口から徒歩1分
- ・地下鉄『銀座一丁目駅』下車 9出口より徒歩5分
- ・地下鉄『東銀座駅』下車 A2出口から徒歩2分

